

## (1) 調査報告書

### 1) 活動の背景

筑波研究学園都市の建設が開始されてから40年を数える。1985年の科学万博に伴う整備により都市としての機能が整い、87年の4町村合併により、つくば市が誕生した。88年に筑波町、2002年に荃崎町との合併が行われ、現在は、中心部に筑波研究学園都市を擁する、面積284km<sup>2</sup>、人口約20万人の都市となっている。2005年5月には、都心とつくばを45分間で結ぶつくばエクスプレスの開通が予定されており、その沿線では、わが国最後の大開発と言われる人口10万人のまちづくりが計画されている。

そのつくばエクスプレスの起(終)点となるつくばセンター周辺では、鉄道や駅、駐車場、ショッピングモールなどの工事が急ピッチで進むとともに、都市公団の所有地が売却されて、次々と高層マンションが建ち、変貌が進みつつある。一方、都市施設の老朽化、大型店舗の閉店などに伴う空洞化も懸念されている。

この変動期のつくばにあって、現在のつくばの持てるものを再確認し、官民協働してそれを活かすことにより、現在のつくばを住みよい活気のあるまちにすることが、計画されている新しいまちづくりのためにも重要である。

つくばの持てるものの一つとして、数多い公園が挙げられる。市民1人あたりの公園面積は、国民平均が6.25m<sup>2</sup>であるのに対し、9.87m<sup>2</sup>と大変恵まれている。さらに公園を含む都市施設は、全長48kmに及ぶ緑豊かなペDESTリアンデッキによって結ばれている。

豊かな緑、広々とした空間、立派な施設は、つくばの財産だが、問題も多い。

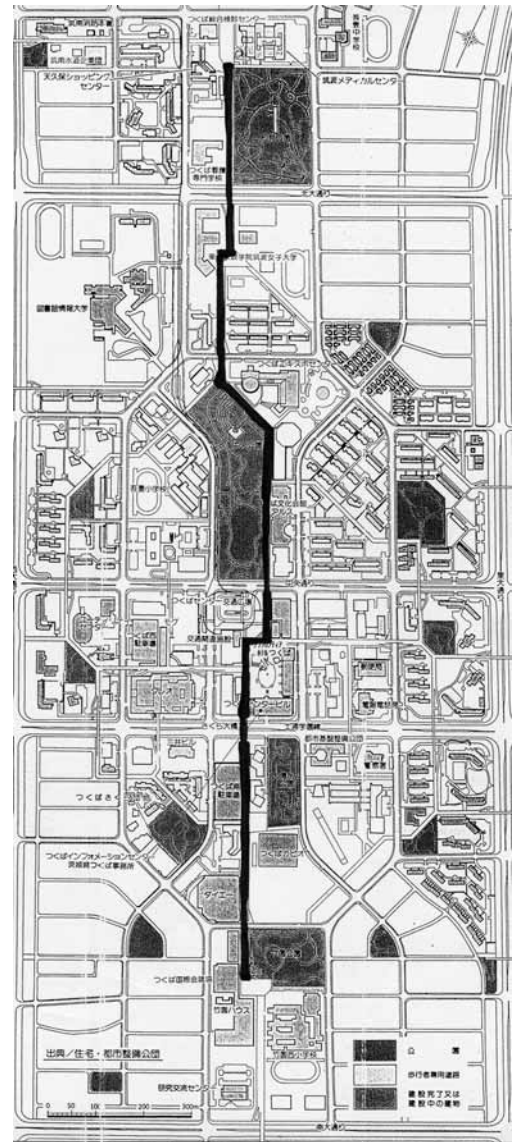
レストハウスなどの施設や、ベンチ、サインなどのストリートファニチャーは、立派でデザインも優れているにもかかわらず、目立たない、使い勝手が悪い、周囲からのアクセスが悪い、メンテナンスのしやすさが考えられていないなどの理由から、使われていないもの、役に立っていないものが多い。

公園は、車道から見えない、中低木が茂りすぎているなどの理由から、人目が届かず、危険な場所となっている。

ペDESTリアンデッキは、街灯が少ない、緑が繁茂しすぎている、木の根で舗装が持ち上がり路面の凹凸が激しいなどの理由から、通行と防犯の両面から、問題の多い場所となっている。

### 2) 活動の経緯と目的

1997年に、筑波研究学園都市建設の中心であった住宅・都市整備公団がつくば開発事業を終了し、管理を市と市民が担うことになった。それに伴い、1998年、市内農家生産の花を市民参加で植え、つくばの玄関口であるつくばセンタービルとその周辺を活性化しようと、参・官・学・民が連携して、つくばアーバンガーデニング(TUG)事業がスタートし、年4回の花植えと定期的な手入れを行うとともに、つくば100本のクリスマスツリーなどのイベントを開催している。多くの市民が参加し、全国的に



地図1：センター地区ペDESTリアンデッキ

も評価、注目され、イベントには市外からの参加者も多数あることから、成果があがっていると考えられる。(図1)

また松見公園においては、TUGが2000年にTUGが「緑のデザイン賞」を受賞して、市民参加でユニバーサルデザインの「いやしの庭」を建設した。これにより、現在は公園全体が市民交流の場、園芸福祉の場として活性化が進みつつある。

本調査は、これらのTUGの体験を生かして、つくばの財産である、公園、ペDESTリアンデッキが愛され、活用されることをめざして、注目度が高く、これからのまちづくりへの影響が大きいセンター地区のペDESTリアンデッキと、松見公園レストハウスを対象として、以下の点について意見を集め、可能性の高いものについて、具体的に検討する。(図2)

- A 市民に手入れができるか。できるとしたらどんなことが可能か？
- B ハードの変更が必要か。可能か。変更するとしたらどんなふうにする？
- C ソフト(使い方)を変更できるか。新たなソフトを創造できるか。できるとしたら、どのように？

図1

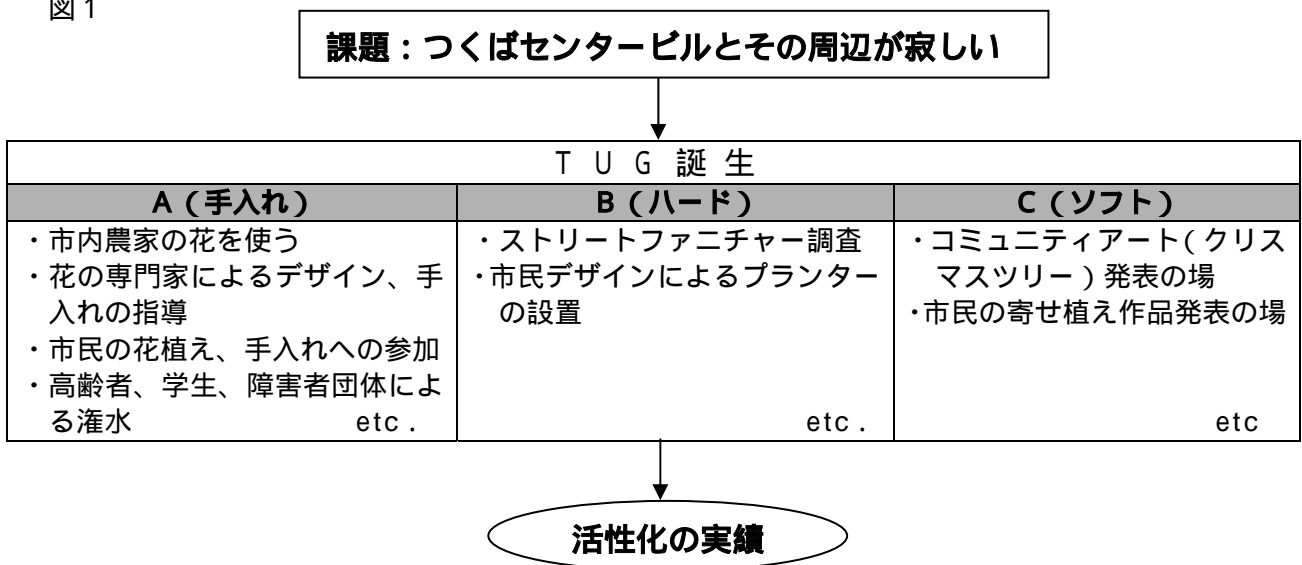
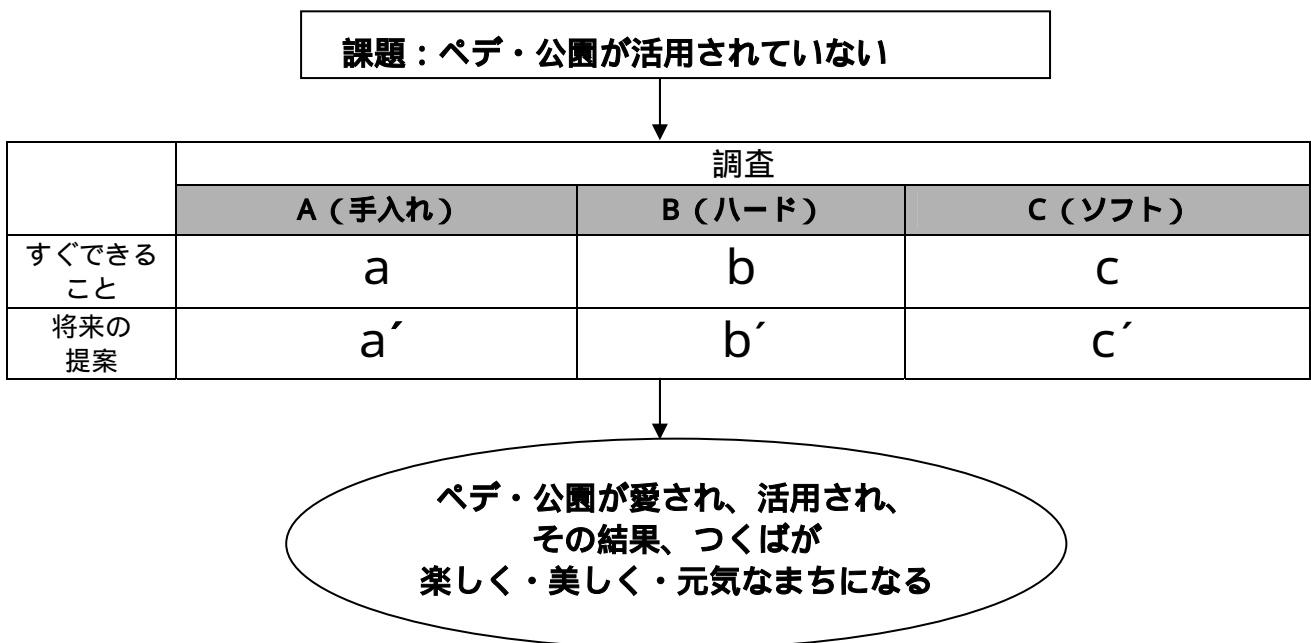


図2



### 3) 活動の内容

センター地区においては、つくばセンタービルを中心に、南へは、大清水公園、市民交流センターカピオ、国際会議場エポカルが、北へは、中央公園、文化会館アルス、エキスポセンター、筑波女子大、松見公園、筑波大学が約5キロメートルのペDESTリアンデッキで結ばれている(地図1)。この地区で、以下の活動を行った。

ペデ再生のための「ペデ・ウォッチ」ワークショップ  
ペDESTリアンデッキ行動調査  
座り空間調査  
ペDESTリアンデッキ(センター広場)花植え  
「いやしの庭」花植え  
春のコンサート&バザール&カフェ  
ベンチの修理&ペンキ塗り調査  
クリスタルルーム改装調査

### 4) 活動の成果

#### ペデ再生のための「ペデ・ウォッチ」ワークショップ

---

日時：2004年2月8日(日)13:00~17:00

場所：つくば国際会議場エポカル集合 松見公園・クリスタルルーム

参加者：40名 (学生20名、市役所職員12名、企業2名、TUG7名)

主旨：築30年以上を経過して、ほころびが目立つペデを、住民の目で観察・検討し、再生・魅力化のための方策を提案していくためのワークショップ(WS)を行った。このWSでは、道を「単なる通路」と単機能的にとらえるのではなく、道がかつて人々の生活の場として多様に活用されていたことに着目した。ときには交流の広場になり、ふれあいの庭になり、こどもたちの遊びの場になり、行商の市場になり、紙芝居の劇場になっていた時の姿をイメージしながら、つくばの顔であり私たちが日常使用しているペデを見つめなおし、その再生への可能性を探った。(1グループは公園内施設である松見公園レストハウス“愛称クリスタルルーム”について検討した。)

進め方：グループに分かれて、テーマを設定し、歩きながら、発見したこと、提案したいことなどを記録し、その成果を集めてディスカッションを行った。



## 「憩い・バリアフリー」グループ

着眼点：「いこいの場」と見立てて、  
ペデの可能性を考える  
+ バリアフリー

参加者：萩田秋雄 TUG 理事長  
筑波技術短期大学教授  
中島和樹 筑波技術短期大学建築工学科  
氷見倫子 筑波大学芸術専門学群デザイン  
他 6 名

### 問題点

- ・ 案内板の点字が消えている（竹園公園）
- ・ 車椅子トイレ、入り口近くに段差がある（竹園公園）
- ・ 池を渡ることができない橋がある（竹園公園）
- ・ 建物へのエントランスが分かりにくい
- ・ 石の椅子、汚れていて座りたくない。冷たい 写真 1
- ・ 点字ブロックがペデのど真ん中（狭いところでは危ない）
- ・ 地面のレンガが滑りやすい 写真 2
- ・ 道が沈下して走りにくい（中央ペデ）

### 改善点

- ・ 水飲み場の撤去の検討
- ・ 自転車、自動車などでペデに接続しやすくする。駐車場、駐輪場の整備
- ・ 見通し、見晴らしのよいペデにする
- ・ マンションの陰で全体的に暗いので、下からのライトをつける 写真 3

### 提案

- ・ 日の当たる部分には木を植えず、ベンチとテーブルを置いて憩い空間にする
- ・ 音の風景を作る
- ・ 木、花の名前の看板を作る。親しみが増す
- ・ 花に囲まれ後ろが遮られて安心できる、前が見通せる明るいベンチを作る
- ・ レンガの花壇と一体感のあるようなベンチを作る
- ・ ペデの高さを利用して夜景を見下ろす
- ・ ベンチから見る風景 劇場型ベンチ
- ・ 識別タイルをなくし、砂利、芝生などの自然素材で誘導
- ・ 国際会議場とその喫茶店、街路と関係なくさびしい。オープンカフェになるといい
- ・ 車椅子で気軽に入れるオープンカフェ
- ・ 空を見られるように木の配置などを検討して広い空間にする
- ・ 自転車を飾る駐輪場を作る
- ・ 階段にはっきりと色分けされた手すりを作る



写真 1



写真 2



写真 3

## 「市場」グループ

**着眼点：**「市場」と見立てて、ペデの可能性を考える  
+ ペデと外部との関係性

**参加者：**渡 和由 TUG 理事 / 筑波大学助教授  
酒井清貴 つくば市道路課  
田中佐代子 筑波大学 1 年  
他 5 名

### 問題点

- ・ 植物が多すぎる。ところどころ森化してしまっている 写真 4
- ・ 道沿いに高い建物が並んでいて、そんなところに限って街灯が不十分
- ・ 破損部分が目につき、障害者の人たちにとっては命取りになる可能性がある
- ・ ベンチの存在意義について - なぜこんなところに置かれているのか、誰が座るのか 写真 5
- ・ 隠れ空間があり、危ない
- ・ エキスポセンターの旗はよくない
- ・ マンション・駐車場犯罪コーナー

### 改善点

- ・ 街灯の増設。高い位置だけでなく、足元も
- ・ 道幅を広くする
- ・ 植物を減らす。高い木は片方だけにして、もう片方は花壇を設置する
- ・ ベンチと自動販売機の増設（温かみのある材質で）

### 提案

- ・ 公園の周囲に、ショップやカフェを誘致する
- ・ イス・テーブルばら撒き作戦
- ・ ゲリラカフェ
- ・ イベント案内板をつくる
- ・ 竹園公園の一角にカフェをつくる
- ・ エポカルのパーティーを竹園公園で
- ・ エキスポセンターの旗



写真 4



写真 5

## 「緑のミュージアム」グループ

**着眼点：**「緑のミュージアム」と見立てて、ペデの可能性を考える  
+ 生き物たちとのふれあい

**参加者：**蓮見 孝 TUG 理事 / 筑波大学教授  
飯泉省三 つくば市企画調整課  
三友なな 筑波大学大学院  
他 5 名

### 問題点

- ・ 道が一直線
- ・ サツキのワンパターンな並木、植栽がワンパターン 写真 6
- ・ 放置自転車が多い
- ・ 水路が汚い
- ・ 樹木の元気がない 根が張れないのではないか
- ・ 生き物が棲む気配がない

### 改善点

- ・ きれいな水の復活、せせらぎの聞こえるペデにする
- ・ コンクリートやアルミの殺風景なファサードや壁に緑をプラスする
- ・ 看板の下にも花を植える
- ・ 花を植え、ワンパターンな植栽に変化を
- ・ 緑をつなげる 橋の上、広場にも花や植栽をし、ペデを殺風景にしない

### 提案

- ・ 植物の香りをテーマに、ハーブを植え、ペデをハーブ園にする
- ・ 花棚を作り、花に囲まれるスペースを
- ・ 市の花「ユキノシタ」を植える 地域日生植物公園作り
- ・ シロツメクサの群生 花かんむりが編めるように
- ・ サツキが植わっている大プランター 11 個を花に変える（コンテスト形式） 写真 7
- ・ 子どもが遊べる植物を 登れる木、くつつく実、食べられる植物など
- ・ わき道、獣道、道らしくない道をつくる
- ・ 植物の中に入れる小道をつくる 観察道



写真 6



写真 7

## 「座る・集まる」グループ

着眼点：「広場」と見立てて、ペデの可能性を考える  
+ ベンチのデザイン

参加者：齋藤 学 TUG 理事 / 筑波大学助教授  
室町 つくば市公園緑地課  
温井達也 筑波大学大学院  
他 6 名

### 問題点

- ・ ベンチの利用率が低い
- ・ 図書館の前にイスが欲しい
- ・ 狭く、人の流れが速い通路のようなところにベンチは必要か
- ・ 人気のないところでは座りたくない 写真 8
- ・ 目の前を人が通るところは座りたくない 写真 9
- ・ 大清水公園の閉鎖的な感じがもたない

### 改善点

- ・ 視線を少しずつずらして置く工夫を（皆同じ方向を向かないように）
- ・ 植物の使い方とイスを置く場所の関係に注意する
- ・ 光りが必要なように思う
- ・ 夏暑く、冬冷たい石のベンチではなくね木のベンチを
- ・ 使っていないベンチは置かない
- ・ 腰をおろしたくなる場所（人を待つ、歩いて疲れた）にベンチを

### 提案

- ・ ベンチのメンテナンスを市民で行う 塗り替え一台数千円、木部交換 2~3 万円
- ・ ベンチとフラワーボックスを一体としたデザインにする
- ・ テーブル付きで食事ができる場所
- ・ 植栽の見直しと座り空間の再配置 メインツリーをもうける



写真 8



写真 9

## 「レストハウス」グループ

着眼点：「劇場」と見立てて、松見公園  
レストハウスの可能性を考える

参加者：井口百合香 TUG 理事  
島袋典子 つくば環境フォーラム理事  
他4名

### 問題点

- ・くいだおれの景観をどうにかしたい
- ・レストハウスがさみしい 写真 10

### 改善点

- ・裏の通りから見える印象をもっと明るくする
- ・コミュニケーションの場を設ける

### 提案

- ・市民ギャラリー(地域の人の作品、幼稚園や老人会で作った作品、大学生の作品などを展示する)
- ・日曜市場、地域の物産展
- ・休日のみに開かれるカフェ ゲリラカフェ
- ・屋上緑化
- ・滝のカーテン
- ・子どもが入って遊べる水辺 写真 11
- ・カフェに続く橋をかける
- ・ギャラリーとカフェを融合したものをつくる
- ・夕方にスクリーンが出てきて、屋外映画を楽しむ
- ・コンサートライブステージ
- ・水上ステージ



写真 10



写真 11

## 全体として

クリスタルルームに集合して、各グループごとに提案をまとめ発表した。  
すぐできる改善案として、座り空間、カフェ、親しめる植栽についての提案が多かったことから、  
の調査、および のイベントを実際に行ってみることになった。





## ペDESTリアンデッキ行動調査

日 時：2004年2月18日（水）午前、午後、夜  
2004年3月7日（日）午前、午後、夜

参加者：12名（筑波大学「すわるかたち」木工ワークショップ / 筑波大学環境設計論特講Bの協力）

主 旨：ペDESTリアンデッキが、現在、実際にどのように使われているかを把握するため、平日と休日、時間帯別に、人々の動きを調べた。

松見公園から竹園公園までを6エリアに分けてペデに沿った調査を行いました。

（エリア分け）A、竹園公園周辺 B、大清水公園周辺 C、センター周辺 D、中央公園周辺  
E、女子大周辺 F、松見公園周辺



調査内容 1. 現状把握、2. 利用状況（場所）、3. 利用状況（動線）

### 1. 現状把握より

- ・ 舗装材のいたみが激しく、自転車での走行にも危険な箇所が多くあります。（特に橋の取り付け部など）
- ・ 落書きや広告、注意の看板やのぼりが、景観を大きく損ねています。（中央公園の、のぼりなど）
- ・ 夜間照明が暗く、歩行するのが危険です。
- ・ 植物によって分断され空間を孤立させている。（大清水公園、図書館前の公園など）
- ・ 使われていないベンチが多く、管理状態の良くないものが見受けられます。（中央公園と女子大接続ペデなど）
- ・ お店がペデと関係していない。（竹園公園とエポカルのレストラン、ベルガとペデなど）

### 2. 利用状況（場所）

休日、平日（朝9:00、昼13:00、晩19:00）とエリアごとに調査を行いました。

- ・ 松見公園や中央公園などの池周辺は絶えず利用者がいます。
- ・ エポカルやカピオなど、大きな施設のあるエリアは、イベント状況により、周辺利用状況も大きく影響を受けます。
- ・ 竹園公園周辺は子供が多く遊んでおり、ペデの自転車交通との関係に注意が必要です。
- ・ 大清水公園の利用者は、極端に少ないです。
- ・ センター周辺では、ローソン前のベンチ利用者が多く、すわり場所が不足気味です。
- ・ センター広場でのフリーマーケットや出店のある時は、特に自転車交通と歩行者への配慮が必要。
- ・ 中央公園周辺では、アルスにあるカフェがペデに面しており、賑わいを出している。

### 3. 利用状況（動線）

- ・ 通勤や通学ラッシュには、一時的に大量の自転車交通が発生するが、ペデの幅は狭い。（竹園公園からある、流れていない人工の河はペデの幅員拡張に利用できる）  
（女子大前のベンチとパーゴラは、あまり使われていないので、スペースを幅員拡張に利用できる）
- ・ 図書館前は、駐車自転車と橋からスピードを出して下る自転車によって、歩行者には危険です。

- ・使われていない「くぼみ空間」の前も平日のラッシュ時には、1時間で100台近い自転車の通過があります。



## 座り空間調査

日時：2月9日(月)

参加者：10名(筑波大学「すわるかたち」木工ワークショップの協力)

場所：横浜山下公園、中華街、南大沢、多摩ニュータウン

主旨：他地域において、まちに賑わいや憩いの場をつくりだしている座り空間を調査し、つくばのペDESTリアンデッキおよび公園に応用できる例を探した。

### 事例紹介

#### ・ベンチの維持管理

山下公園のベンチはペンキによりメンテナンスを頻繁におこなっており

木部のビス穴を補修しながら使っている。

工夫として木部材は一種類だが、本体のデザインが3タイプあり、ビス

穴の位置が違う為木材がさらに長持ちする。



横浜山下公園

#### ・座りたくなるベンチ(Shopとの関係)

フィックスなガラスによって仕切られたカフェでは、店との関係性が感じられず、テーブルや椅子があっても座わらない、一方店との一体感の感じられる

カフェでは、外に飲み物を持ち出し座る。

外に座る人が、お客をよぶことに繋がりがまちの賑わいをさらに演出する。



南大沢駅

#### ・ベンチとアイテム

- 1.ベンチとフラワーポットのコンビによりかわいらしさや、安心感を持ち座ってみたいと思う気持ちをうむ。
- 2.同じデザインのベンチでも、間仕切りのあるものと無いもので、座るかどうかに大きな影響をあたえる。



## ペDESTリアンデッキ（センター広場）花植え

---

日 時：2月22日（日）/29日（日）9：00～12：00

参加者：75名（TUG18名、一般参加者43名、市職員24名）

主 旨：センター広場の55基のプランターおよびケヤキ48本の根元に、春の花を市民参加で植える。

29日に予定していたが、23日に、つくば国際会議場エポカルで花卉生産者全国大会が開かれたため、急遽22日にも実施。市職員も参加して、土作りから大活躍だった。



ノースポールとアリッサムで春の広場に。

## 「いやしの庭」花植え

---

日 時：3月5日（金）

参加者：12名（TUG ガーデナー6名、TUG 研修生6名）

主 旨：ペDESTリアンデッキと公園の境にある「いやしの庭」に春の花を植える。

小さな子どもから高齢者まで、様々な人が楽しめるように、中央S字部分の花壇は遠くからでもよくわかるように明るい目立つ配色にしている。

上段はパンジーの黄色、下段はビオラの紫を基調に、2つの色調の対比やグラデーションを考えている。



## 春のコンサート&バザール&カフェ

日時：3月7日（日）9：00～15：00

参加者（主催者側）：27名（コンサート関係10名、グリーンハウスカフェ担当10名、バザール担当7名）

主旨：ワークショップで出された、多くのソフトの提案を実地に試してみる。

### 春のコンサート

毎月第2土曜日午後1時から行っているガーデンコンサート IN MATSUMI を、特別バージョンとして午前、午後の2回行った。内容は、プロの音楽家の協力による「宏子と美恵子の二重唱～春のメドレー」と筑波大学ジャズ愛好会の演奏。

ワークショップで出されたイス・テーブルばら撒き作戦として、筑波大学食堂のパラソルつきテーブル、100円ショップで買ったミニ椅子を並べてみたところ、雰囲気もよく利用者もいたが、高齢者施設からコンサートを聞きに来てくれたお年寄りには、低いイスは無理なことがわかった。

広々とした空間で、池の水面の輝きを背にした地元のプレーヤーによる演奏を聞くのは、つくばならではの楽しみで、今後、つくばの多くの公園に広がっていくことが望まれる。



### グリーンカフェ

・農業の象徴である、グリーンハウス（ビニールハウス）と賑わいの基点となるカフェを融合させることにより見慣れている農村風景も、見方を変えるとオシャレな空間に生まれ変わることをあらわしています。

・簡単な構造の為、屋台のようにイベントに合わせてカフェをだせる、モバイル性のたかさが利用の場所を増やしています。

・展示物の掲示やアンケートの収集、参加者のコメント付き顔写真の掲示など、インタラクティブなイベントを行い、参加者が一体となってグリーンハウスカフェの製作を行うことも特徴のひとつです。



### バザール

朝、農家に納品してもらった新鮮な花苗を廉価で販売した。利益は「いやしの庭」の花苗代として活用できるとともに、催しの彩りとして効果的である。

また、つくばの農家の花を市民に紹介するという、都市と農村の交流という役割も果たしている。

ペDESTリアンデッキに面しているので、ペデにも色を添えている。



## ベンチの修理 & ペンキ塗り調査

2月8日開催の「ペデ・ウォッチ」ワークショップにおける“集い・すわる”の視点から見出された課題をもとに、早急な対応策の一つとして既設ベンチの修繕を目的とする追加調査をおこなった。(協力；筑波大「すわるかたち」木工ワークショップ)

### 調査内容

項目として「設置場所」「設置数」「材質」「形状」「定員」「劣化状況」「環境適正」を設定し、国際会議場からメディカルセンター病院までのペDESTリアンデッキと、隣接する公園に設置されている約280基のベンチについて現状を評価した。(スツールタイプと着座可能な植栽併用の大型造作タイプを含む)

### 調査結果と問題点

- (1)劣化や汚れにより利用をためらう状況のものが約20%、躊躇するほどではないが、劣化していると判断できるものが45%あった。また、木材を使用しているものに限定すると値は更に高くなり、それぞれ25%(約40基)と60%(約100基)という状況であった。
- (2)設置場所の環境は概ね良好であるが、一部「場所の暗さ」「通行者と近接」などの理由から不快と感じる場所があった。[7%]

### 改善策と今後の課題

今回調査を実施したエリアは、研究学園都市開発のなかでも初期に整備された街区であり、ベンチを始めとする設置後20年以上経過した屋外設備の老朽化が急速に進んでいる。調査結果の(1)に示したとおり、木材を使用したベンチについては他の素材に比べ劣化の割合が高い。これは、つくば市に限ったことではなく、木部を有するベンチは定期的なメンテナンスが必要であり、東京・横浜地区の調査も平行して行っているが、各自治体によりその対策は様々である。

東京都 / 設置・使用期間：20年程度，修繕方法：木部の塗替えによるメンテナンスは行わず、耐用年数を7年と設定し劣化した部材を順次交換（業者委託）今年度は「思い出ベンチ」事業により200基を都民からの寄付で新調  
横浜市 / 設置・使用期間：25年，修繕方法：木部の塗替えによるメンテナンス（業者委託，小規模修繕は直営職員）

劣化が目立ちやすい造膜形着色塗料を用いているが利用者が多い公園についてはメンテナンスが行き届いている。



つくば市は約250の公園と全長48kmにおよぶペDESTリアンを管理しているが、財政規模から考えると維持・修繕費用は膨大であり、行政予算だけの定期的なメンテナンスは困難な状況にあると判断される。このことより、将来的にTUGを支援窓口とした市民参加型のメンテナンスシステム構築の可能性について、今後とも検討していく予定である。

同時に実施したメンテナンス作業工程調査、材料調査より、木部のコンディションを維持するためには2年毎の含浸形保護着色塗料による再塗装のメンテナンスを推奨する。ただし、既設ベンチおよび市販ベンチの多くはメンテナンスに対する配慮が低く、新設・更新する場合は十分留意する必要がある。(筑波大にて継続研究予定)

メンテナンスコスト(1基あたり概算) / 木部交換+再塗装：12千円，再塗装のみ：3千円，大手メーカー委託(木部交換+再塗装)：30~40千円  
作業時間(2名で作業) / 合計5~6時間(作業工程の都合により3回に分けて実施)



## クリスタルルーム改装調査

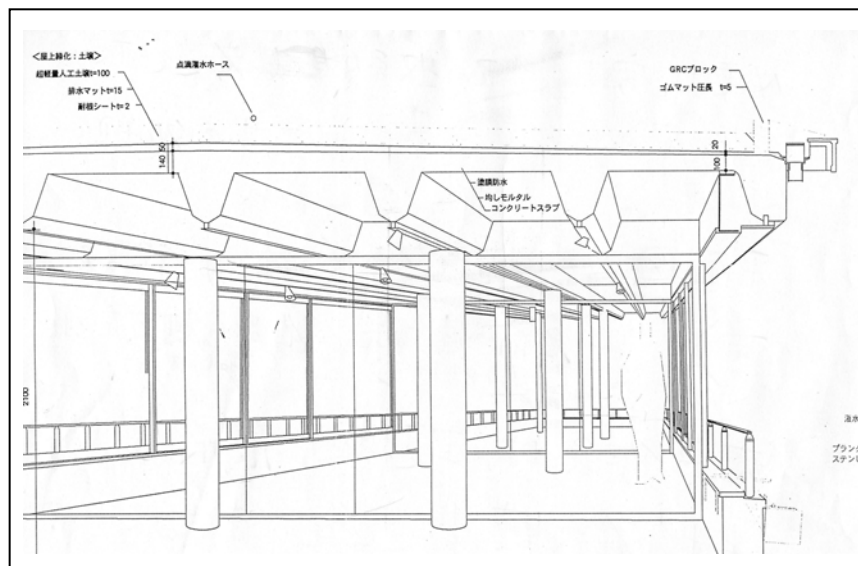
「いやしの庭」と連動して、クリスタルルームにおいても、SGAP（自閉症青年の自立を助ける会）や TUG の活動が行われているところから、改装して活用したいという希望が以前から出ている。松見公園は研究学園都市で最初にできた公園であり、研究学園都市を視察に訪れた要人を接待したのがこのクリスタルルームだということで、床が大理石張りであるなど大変立派なつくりとなっている。

しかし現在は、テナントの喫茶店も撤退し、電線が腐食して電気が来ていないことなどから、SGAP が集めたイスをならべただけの無料休憩所となっている。

ワークショップで出されたギャラリー案を実現するための検討を行った。

### 検討内容

- ・天井の処理
- ・絵画をつるすレール
- ・電気、水道を引けるかどうか



## 5 ) 今後の展開

ペDESTリアンデッキについては、市も大変関心を持っており、今後 10 年でペDESTリアンデッキを再整備する計画である。本調査の結果も提供すると共に、市民参加の緑の手入れについては、さらに市民の立場から調査を進めていきたい。

ペDESTリアンデッキの賑わい創出については、つくば市、筑波大学、商工会、他の市民団体と協力して「つくば・まちかど音楽市場」を開催していく予定である。

## 6 ) 活動のポイント

### ・人材

TUG 理事である筑波大学、筑波技術短期大学の専門家、学生、TUG ガーデナー、TUG ボランティアのほか、市役所職員が多数参加してくれた。

### ・資金調達

本調査では、筑波大学の地域貢献助成金を受けた「すわるかたち」木工ワークショップの協力を受けた。

### ・ネットワーク・支援

本調査を通じ、ペDESTリアンデッキを再生する上で市、大学との連携の基礎ができたと考えられる。